IYSで学んだ先輩団員の声

私はIYSでの1年間の学びが、その後の自分の進路を決めるきっかけとなりました。参加当時大学3年生で、教員をめざしていた私は、どんな教員になりたいのか、そもそも本当に教員になりたいのかなどと迷っていた時期でもありました。そんな時、普段の生活では経験できない、このIYSでの人権活動での学びや、個性豊かな団員それぞれの考えに触れ、お互いを認め合う大切さを学ぶ機会を得ることができました。そして私は1年後、教員の道を通して、誰かをサポートしたい、誰かの人生にとってキーパーソンとなれるような人になりたいと、これからの目標を決めることができました。

私の今後の進路は教員職といっても、社会的にはマイノリティと言われている不登校の生徒たちに寄り添う仕事です。IYSに参加する前の自分にとっては、全く考えていなかった進路です。人権問題を考える機会がなければ、そのような道に進むこともなかったと思います。

もし入団を迷われている方がいたら、自分を変えるきっかけだと思い、思い切って入団してほしいなと思います。ここでの多くの人との出会いが、自分を変えるきっかけになると思います。

（13期団員　F.Mさん　大学3年生）

男女平等や人権問題など、日常で聞く機会が増え、理解が広まってきているように思うが、まだ沢山の課題があるように感じていました。親や友だちとの会話でも、「女(男)のくせに…」「(国名)の人は危ない」など決めつけや偏見のある発言を聞きます。その都度、私の心はモヤっとしました。同時に、私も無意識に何かに対して決めつけや偏見を持っているのだろうなと思いました。『イメージ』で語ることが決めつけや偏見に繋がっているのかもしれない。

だから『実際』を知りたいと考え、ＩＹＳに参加しました。

前期研修や後期研修では、人権課題の当事者から話を聞いたり、人権、男女共同、医療など様々な分野で活躍されている講師さんに来ていただき学びました。今まで何となく知っている気でいた言葉や意味は、誤解や間違いもたくさんあることに気づきました。学び直せたことで、勝手な思い込みに気づけたことは「実際」を知るための大きな一歩となりました。

台湾のスタディツアーで得たものは、「ちがい」にばかり目を向けていたことに気づくことができたことです。私は小学校に勤務しており、未来を担う子どもたちを教育する立場にあります。そんな私が、ちがいはあって当然だけど「おなじ」ことだってたくさんあるということを学べたのは、とても意味のある経験でした。今後もたくさんの人と関わりながら、自分自身の思い込みや偏った考えに気づき、視野を広げていきたいです。（14期団員　O.Mさん　社会人）

私はIYSの活動で自分の学びたいこと、目指すべきところを見つけました。様々な人と関わる中で新しい気づきがあり、今の自分の価値観を形成する上で大きな影響がありました。IYSの活動はかけがえのない経験になりました。（13期団員　O.Sさん　高校2年生）

あなたも、ＩＹＳの活動に参加して、自分の今後に大きな影響を与える体験をしてみませんか？
いっしょに「人権意識」を高めて、それぞれの世界に羽ばたきましょう！
※作者プロフィールは参加当時です